



今日も休みらしっスよ

黒子っちッスよ

ほとんど学校
来てないみたいって

引退の日も結局――

桃つちが行って
出てこないとなると

オレが
会いに行っても
無理ッスかね！

会いてーけど
そーとーショック
受けてたし

やっぱ少し
ほっとくほうが
いッスよね！

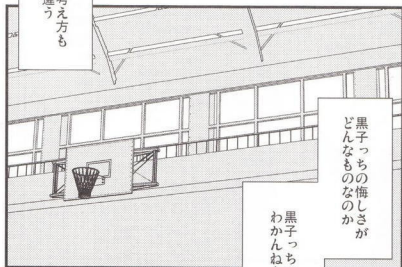
ま、
少ししたら
落ち着いたら



何もわかって
いなかった

心配していたのは
事実だけど

根本的に考え方も
価値観も違う



黒子っちの悔しさが
どんなものなのか

黒子っちの言うことが
わかんねーオレには

想像もつかなかった



そのうち
会えるっしょ

軽く考えていた

つまらない毎日が
やっと楽しく
なったところで



またつまらない
毎日にもどって

ビュウビュウと
吹きすさぶ風の音を
どう止めようか



高校か？

そんなことを
ぼんやり
考えていた

.....

面白くなりやあ
いいけど。



あれ？





黒子っち？



黒子っち？



やっぱり
黒子っちだ！
久しぶりッスね

オレ今撮影の
帰りなんスよ

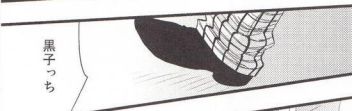


黒子っちは
何してたの？

てか元氣なんスか
みんな心配し！

!?

はっ





表情。

黄瀬君……

久しぶり、ですね。

桃っちとか
心配してるツスよ

何度か会いに
来たでしょ？

黒子っち出てく
ないって言ってて、
オレも会いたかった
ツスよ

つっ……つーか
何で逃げるんスカ
酷いツスよ

せっかく
久しぶりに
会えたのに

……

……どうしたんですか

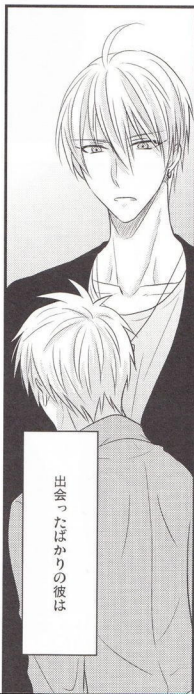
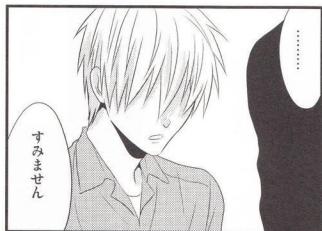
……引退式にも

友達とはあのと

やめてください

顔、出さな
かったツスね

いや、



彼が
こんなふうに

好きだという
感情が
あふれていた

バスケットが
とても楽しそうで

あの頃感じた
あの純粋さは

瞳のおくにあった
あつさは

しばらく
しまっていた

オレはもっと早く
会わなくちゃ
いけなかったんだ

もっと早く
黒子たちを
見つけなくちゃ
いけなかったんだ

こんな

なる前に。

最近どんな本
読んでんスか？



あ、
そっか
受験か



それから
黄瀬君は

頻繁にボクの
前にあらわれる



このままでは
黄瀬君を家に
入れかねない

ボクの両親に
レベレをかける

風子

家の前。

…家に居ても、
出たくなないと
伝えれば、
遅くまで居座り



こういうの
ストーリーって
言うんでしょうか



だからさ、
海常行こうよ。

また一緒に
バスケやろ！

オレ、
黒子っちのことは
マジでソンケー
してるんす！

そんなの
決まってるじゃ
ないッスか



ひど！

なんスかそれ！

どうして、
ボクを誘うんですか

…そんなふうには
言ってもらえるのは
光栄です

丁重にお断り
させて頂きます

文脈
おかしくねえ!?

もうバスケットは
やめると
決めました

第一、

ボクとキミとは
バスケットに
対する姿勢が

違いすぎる

……
黒子っち、

変わったツスね

初めて黒子っちの
プレイを見た日

アンタは
言ってた

負けたらもっと
つまんねーって

そうですね…

確かに今でも
負けたら悔しいです

勝ちたいと
考えます

けど、
「勝つことが全て」
とはもう

思えない
んです…

あるはずなんです…

はあ…

もっと、
大事なものが

えっ

キミ、暇
なんですか？

カ-

ハッキリ断り
ましたよね

諦めの悪さは
黒子つちに
負けねーツスよ☆



まり部活は
引退しちゃったし

体育館は行けば
使わせてもらえるけど

推薦決まってるし

仕事は行ったり
行かなかったり？

……………
そうですか

!!

何いまの反応！

黒子つちの
キチヨーなデレ！

違います

暇っつか…

黒子つちに
会いただけツスよ

正直、
戸惑っていた

うっすらと
形にすらなっ
ていなかった

黄瀬君への
気持ちがあつた

バスケットへの
姿勢の違いも
ショックを受けた

あんなことがあつて
プレイヤーとして

それと同時に
形にもなつて
いないそれは

忘れたものだ
と
思っていたから

こんなの
余計に辛くなる
だけだ

ボクだって

チームのために
共に頑張つて

勝利したとき
共に喜びを分かち合う

そんな
当たり前のことが
できないなんて

一緒にバスケ
したかったですよ



や、黒子っち！
お邪魔してるツス☆

ツス



.....
黄瀬君.....

いったい
何を.....



あらテツヤ

夕飯のお買い物
してたら黄瀬君に
そこで会ってね

荷物持って
くれたのよ

ねえ黄瀬君
良かったら夕飯
食べていって

わ
良いんスカ！

黄瀬君の家みたい
にオシャレな食事じゃ
ないかもしれないけど

なんスカそれ
どんなイメージ
ツスカあ(笑)

いつも会いに
来てくれるのに
この子だったら
引きこもっちゃって

いやいやオレが
会いたいだけ
ツスカから！

なんだ…これ…

黒子つち
小食ツスもんね

これちよー
うまいツス！

今日は
賑やかだねえ

あらそら？
良かった

テツヤも
お父さんも全然
食べないから
嬉しいわあ

黒子つちは
顔がお母さん似で
雰囲気は
お父さん似スね！



寝てたんスか？
もう昼ツスよ

あはは
すっぱー寝癖！



つか避けないで
欲しいツスう

あ、そーだお土産
持ってきたんスよ

本当のことでしょう

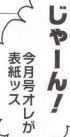
ちよ、取り入りって…
人間き悪いツスね

もう母さんに言っても
キミを勝手に
家へあげてしまっし
避けようがありません



くろこつちい！

遊びに来たツスよー！



バカだ

寝ちゃうんスカ？

黄瀬君が
あまりに自然に
ここに居るから

まるで少し前に
戻ったような
感覚になった

皆がボクを
氣にかけていたら

黒子っち

悪いと思っ
てるかもなど

あるはずもない
期待が無意識に
言葉になった

あれは
夢でもない

海常、
行かねッスカ…？

……
黒子っち…

……
今が現実で

……
また、来るね

ボクはバスケットを、
やめたんだ

10 A-1

あゝツ
黒子っち！

めっずらしー！
学校で会えるとか
ラッキーツ☆

ね、ね、
体育館寄ってく？

使わして
もらえるツスよ！

ほら、第四とか。
誰もいねーし…

ミス
ディレクション
やめて〜！

黄瀬君

もう

やめましよう

もろ
話かけてるのに
消えないで
欲しいツスう

もう帰るんなら
一緒に帰ろ！

もうすぐ
受験です

ボクは海常を
受けません

バスケも、
もうしません

キミと
会うのも

これで最後に
したいんです

黒子「つちね、
頑固ツスもんね」

オレが何言っても
もうダメなんスね

はい

オレさ、やっぱ
勝たなきゃ
意味ねーって思う

だけどこんだけ
簡単に勝っちゃうと
つまんねーんスよね

強い奴に勝ちたいし
勝ってこそ
やったーって
楽しいと思う

皆、何も言わ
ねーッスけど
ふっしに別々の
高校に進むのも

自分と対等に
やれる奴と戦って
勝ちたいからだ

はい……
よかったじゃ
ないですか

うん

黒子っちと

喜び合いたい

けどさー……

けど、

勝ったときさ

オレ、ずっと

懂れてたんす

黒子っちが
青峰っちと

拳あわせんの。



懂れてた



きかっけは
青峰っちだった

それから黒子っちに
教えてもらった
バスケのすげーとこ

つまんねーなって
毎日思ってたけど
アツクなれた

だからオレも
ちよっとはお返し
したかったんすけど…

ね、ほら
コート！

えっ

行こ、
黒子っち！

ちよっ

待ってください
ボクは—

黄瀬君…

黒子っちみたいに
ウスイ奴でも
アツイスポーツに
できるって

これが最後って
言うなら

最後の
お願い

聞いて
くんねツスか

…っ



ボールを持つのが、
久しぶりです。



そっか

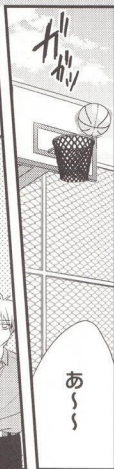


教わらな
かったんスか？

身長近い
赤司つちとかに

放課後青峰つちに
ワンオンワンばっか
オレが言うのも
なんスけど

青峰つちに
——
ああ、



ボクにシュート

必要だと
思いますか…？



黒子つち？

黄瀬君は、







パス!

パス
ちようだい!





もうひとつ
白状するツス

ねー黒子っち
オレさ、最後に

くんないんスね

やっぱ…もう



サリ!

それとこれとは

別ね

?



だから、
海常には
誘ったのは

本気でバスケット
一緒にしたかった
からツス



黒子っちのこと、
ソーンケーしてんのは
ホント

マジで、
こんな奴も
いるんだって

オレの人生で
初めて、感じた事ない
衝撃だった

黒子っち、

あぶん
アタのこと

オレ

好きなんだ

ごめん

言わずにいよって

思ったんすけど…

黄瀬……

でもマジで、
バスケットこれは
別ツスから

それ抜いても
オレと黒子っちが
バスケットじゃ合わない
のはわかったし

黒子っちがバスケット
続けるとしても
オレと一緒に
来れないことも
わかったツス……

あーあー

もったいねー

あんなバスケット

黒子っちにしか
思いつかないのに

もう、
黒子っちのバス

取れない
んスね……

——っ黄瀬く

行こっか

パスはもらえ
なかったけど

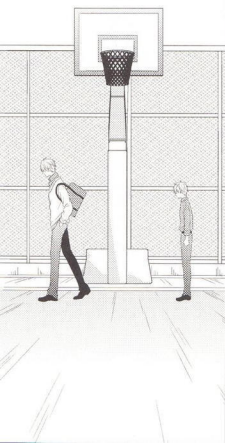
最後に一緒に
コート来れて、
嬉しかったッス

じゃあね！

黄瀬君…

さようなら

ありがと、
黒子たち！



それは、
今日の別れの挨拶ではなく
一生の別れの言葉だった

『ただ高校が離れるだけ』
『ただ毎日顔をあわすことがなくなる』
『ただ同じチームでバスケットがでなくなる』

そうじゃない

『バスケットがつながつてれば会える』とか
『チームが違ってもバスケットは一緒にできる』とか

そうじゃないんだ

黒子たちは
バスケットをやめたんだ

オレと黒子たちの繋がりが
消えてしまった瞬間だった



憧れの場所と



オレは大事なものを
両方失くした



きっとこんな想いは
もう無いと思った





ほんやりと
そんなことを
考えながらも
オレはどなか
決意していた

失恋とか
追いかけるのとか
ダツセーとか

前なら思っていた
だけと諦めらんないし
やっぱ黒子つちが好きだ

バスケやめたから
繋がりが無いとか
そんな、新しい繋が
りあればいいじゃん

キャッ

キャッ
キャッ

だからオレは
黒子つちを
口説きに行く
と決めた！



思えばこーやって
見た目だけで
群がるバカ女とオレに

カッコー！

あのお
黄瀬涼太君？

どーもー

いつも見てまっす

いつたい何の繋がりが
あるのかと考えれば

ありがとう

黒子つちを諦める
必要なか無かつたんだ

待って待って

サインください！

オレってほんとバカだ

順番ツス！

良かったら
写真

絶対逆恨みするタイプ…

自分で勝手に
追いかけてきたクセに
あんたの為に
海常入ったのにーとか

つか
なんでオマエが
仕切ってたんだ
つかの

そーじゃなくても
こーいう子は
別れるときメンドイし

わら
順番ねー

写真？あんま
くっつかないなら
良いけどー

わら

キャッ

キャッ

わら





あ~~~~~
朝練とか
ダリイ~~~~

昨日は遅くまで
撮影だったし
シヨージキ今日は
出たくなかったのに

午後練休んだあぐく
翌朝も休むなんて
やる気あんのかーとか
蹴るし

練習を始める前に
新入部員を紹介する

? 進入部員?
なんで遅れて

あーと、
何処だ?

ここです

わああ

いつからいた!

最初から
いました

な
●●●●●●●●●●

何だあれ

いつからいた?

ポジションは
とくにありません

フーカウスツ

ここで
やれんのかよ

帝光中出身です

な
●●●●●●●●●●

え? いま
帝光中出身って
言わなかったか

聞き違いか?

まあどう見ても
レギュラーじゃ
ねえだろ

な
●●●●●●●●●●

黒子テツヤです
宜しくお願ひし

ヒューン





黒子テツヤ?

あゝおまえ一緒の
帝光出身だったなあ

良かったな

!?
一緒に
クラスに
なれて



え?
今まで気づいて
無かったのか

あゝそーいや
オマエ入学早々
撮影とかであんま
来てなかったしなあ

アイツ
影うすいし

先生もたまに
忘れちゃうんだ
よなあ

ハハハハ



誰?

そんな人
いたっけ?

わかんない♡

……デスヨネ

ねえねえ
そんなことより



いやいし

きゃっ♡
どうしたの黄瀬君

え?

ね、黒子っち
見なかった?

黒子…?

黒子っち?
黒子テツヤ。



黒子っち!!

ズバァ



休み時間も
授業中も無理なら
やつぱり
部活ときしかな

無理だつたら
帰りにいいや
ると思えない

つかもういつそ
黒子つちの家行こう

そーだよ

おばさんは
絶対家入れて
くれるし！

今日は5対5で
ミニゲームをやる

それぞれの
ポジションと
力の確認、
それから

黒子つち！

ちょっと
話さないスカ
なんで

ぎゃん！

休み時間
にやれ

待って
黒子つち！

わあ

あああ

黒子つち
ください！！

スダスダスダ

休み時間は
黒子つちが
ミスディレしちゃ

黄瀬は黒、
黒子は白で
オレと一緒にだ

えっ何で！

オレ黒子つちと
一緒に良いツス！

せんばいいいい
ひどいっすうう

アホ

いふ、
たーくも、

おまえはともかく
黒子はよくわからん

が、仮にも
帝光出身でレギュラー
だったメンバー2人
同じチームに
いれらんねえだろ

先輩違うんすよ
黒子っちはそーい
うんじゃなくて

っーか、なんなんだ
あの異常にうっすい
透明少年は

ちよつとは
オレの話も
聞いて欲しい
んすけど……

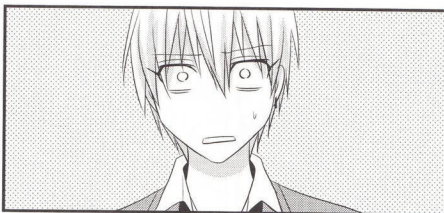
朝練で
見てたが

帝光でレギュラー
はつてたよーには
見えねえ

だから、

黒子っちは――

……





くろくろくろ
やっ
捕まえたッスよ



何時から
待ってたんですか

6時ッス

早起き
ですね

黒子っちが
ちゃんと話して
くれてたら

オレは
もうちょっと
ゆっくり
寝てられたんス

つか
そーじゃなくて

どーいうことか
説明して
欲しいッス



来ないって、

違う学校行くって

言ってたじゃないッスか

バスケも
やめるって…

黄瀬く

はっ

本当に…っ

海常——

入ったんスか…っ

………
冗談は、

苦手だって

知ってますよね…っ

黒子

テツヤです

これ……

夢じゃ、

ないっスよね!?

——っ

はい

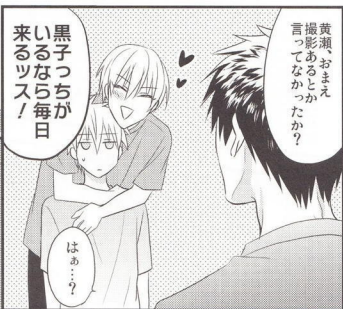
ボクは、

テツヤ……

海常高校一年、



VICTORIOUS KISS 3Q



オレが
プレイヤー
として
憧れたのは
青峰
っちゅス

青峰、ああ
帝光の
エースだった

桐皇に
行った奴か

黒子っちは、
そーいう
プレイヤーじゃ
ないんスけど

オレが初めて
すげーと思って
ソンケーした人ッス

あの人のパスを
もつと
欲しいと思った

けどいつも、
隣にいたのは
青峰
っちだった

試合には絶対
出なきゃなんな
かったし

練習に全然
出てこない
青峰
っちにすら

オレは
勝てなかつた

光が強いほど
影は濃くなる

黒子っちの力を
生かすには

やっぱり
青峰
っちが
一番で……

だんだん青峰
っちは
練習に
来なくなつて
たんスけど

笠松先輩、

お願いッス

!?

オレと黒子っちを
組ませて下さい!

おまえが
頭下げるとか
気持ち悪いな!

来週、桐皇と
練習試合を組んだ

はあ!?

ちょ、
どーいう
ことッスか!
そんなに
いきなり…

ああ?

自信ねえとか
言うなよ

——んなこと
言わねーッス

黒子にそんなだけの
力があるなら
わざわざ引き離す
必要はねえ
!

うちのエースは
おまえだ

ま、
どっちにしろ

っか、

お前の言う、黒子との
コンビネーション
スーパープレイとやら

見せてくれんだろうな

とーぜんツス！

こんなに早く
やれるなんて

願ったり
叶ったりツスわ



——ったく

今日は
マイちゃんの
写真集の発売日
だったのに

つまんねー試合
させやがって

おい青峰！

なあ

テツ、
黄瀬

桐皇
GAKUEN

桐皇
GAKUEN





終わってません！

まだ試合は



おまえの光は
淡すぎる

そのうえあの
火神とかいう奴——

けど、テツ
おまえじゃオレに
勝てねーし

やつぱり
青峰つちは強い

ひとつだけ
認めてやるわ



おまえ
黄瀬じゃ
テツの力を全て
引き出せねえ

ちくしょう



諦めの悪さ
だけは

ちくしょう

ちくしょう

ちくしょう!!

もっと

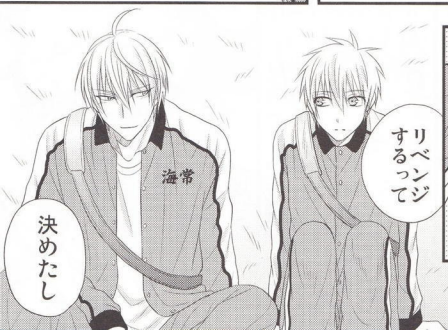
強くなりたい



まだ泣いて
るんですか



黒子っち…



決めたし

リベンジ
するって



もう泣いて
ねーッスう！

涙のあとが…

うっさい
ッス！



もっと
練習して
強くなって



やっぱまだバス
やめたくないって
思ったとしても

黒子っちのバスを
誰かが生かせないと
つてのはわかる

でも、
オレじゃなくても
良かったはずだ

キセキの世代に
代わるような相手が
新しい学校に
いたかもしれない
まあそーいねー
とは思っただ

遊びみたいに
負かされる悔しさは
今日まで知らなかった

それを考えても
黒子っちのショックは
でかかったとは思う

あんときのオレには
そーいうのわかん
なかつたし

今は黒子っちの
言ってること
ちよつとわかつた
気はするけど

自分のことながら
どう考えたって
黒子っち的に、

ついていきたいと
思えるような
人間じゃ無かつた

珍しいですね
キミが自信のない
発言をするのは

茶化さないで
欲しいツス！

試合で負けちゃうえ
冷静に自分から
こんなこと言うの

これでもけっこ
こたえてるツス

DMですか

…黒子つちは
ドSツスね…

すみません
冗談です

…黒子つちは
自分をもってる

だから、
オレのこと
好きになったから
一緒になってのは

絶対違うと
思うんスよね

アンタは

恋愛なんか
左右されない

バスケットに対して
そんなこと
しないっしょ

…まず一つ
言っておくと、

ボクはキミを
認めています
キミは凄い
選手ですよ

青峰君に勝てま
せんでしたけど

バスケット始めて
からの時間が
違いすぎますから

当然といえば
当然ですし

だってボク
きみのこと
嫌いでしたから

キミの
潜在能力や
成長速度は
恐怖すら感じます

まだまだ、
もっと強くなる

.....

それから、
キミの
言うとおり
バスケットと
恋愛は別です

でも100%別と
言い切れるかは
ちよっと
わかりません

?

ひど!!

わかってたけど
そうハッキリと
言わなくても!

やっぱりSだ...

けどそれは
良い意味で、
ですから

選手として
嫉妬してました
ずっと

.....

キミはボクの
バスケットを
認めても

選手として
ライバル視する
ことは無かった

『ボクも
あんなふうに
プレイできたら』
という気持ち
でしたが

キミにもっと
ボクを
見て欲しかった

キミが青峰君に
向けるような感情を
ボクには向けられて
いないことが
悔しかったし

そうしている間に
キミのことなんか
嫌いだったのに……

キミがボクを
尊敬して好意を持って
くれているのは

それ以上でも
それ以下でもない程
と考えれば考える程

選手としても
恋愛としても
惨めでしたよ

ん？



ち
ボクに

パスをくれと、

『黒子っち』

『パス
ちょうだい！』

……
って
それだけ！？

えっと黒子っちも
オレが今言うのも
なんなんスけど

それだけ
ツスカ!?

それで本当に
良か

キミは

わかってない

あのとときボクが

どれだけ
嬉しかったか

だからボクは

キミが
言ったんです！

っ楽しいって

ボクに…っ
パスをくれと…

シュートを
ドライブを

ボクの子のバスケットの
この先が見たいと

キミだけがっ…

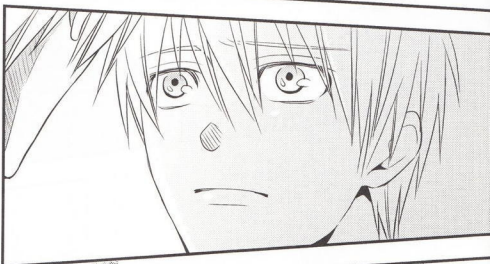
キミの影に
なると決めた



黒子っち…



ぽん



そうして
いなくて
いらないの
に
そう言っ
て
くれたこと
が

ボクは何より
嬉しかった

それはとても
自然な感情だから

…あのとき
ボクには、



オレ
その気持ちは
かわんない

黒子っちの力は
ここで終りじゃ無い

あんどとき
言ったことは
今だっつてそう
思っつてる

ごめん、オレ！
黒子っちが
悩んでたとか
全然

良いんです



キミが
誰よりも

光って見えた

海常



はい！

黄瀬く……

勝とう……！

オレと、黒子っちと、

先輩たちと、
みんなで……！！

約束する！

必ずコートで
黒子っちの
光になるツス！！

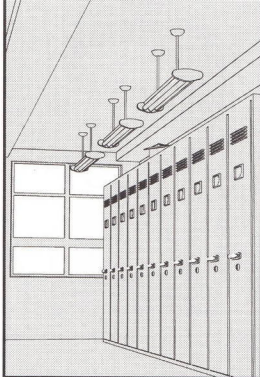
絶対！！



しばらく
モデルの仕事も
入れてないん
だってよ

昨日も随分
遅くまで残って
練習してたな
みたいだしな

あいつ、
ホント気合
入ってるな！



ん、良いに
決まってるじゃ
ないッスか！

黄瀬君
今日このあと
時間良いですか

おうっ

今日も
するんスね
シユート練！

はい



こないだまで
かなりナメてる
感じだったのに

負けて
らんねーな



まずい...？



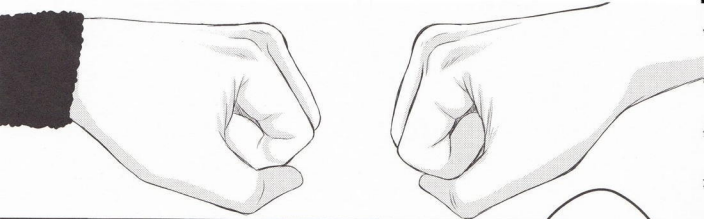
なんだ黒子
シユート練
してんのか

あ、はい
まずかったで
しょうか...



ん



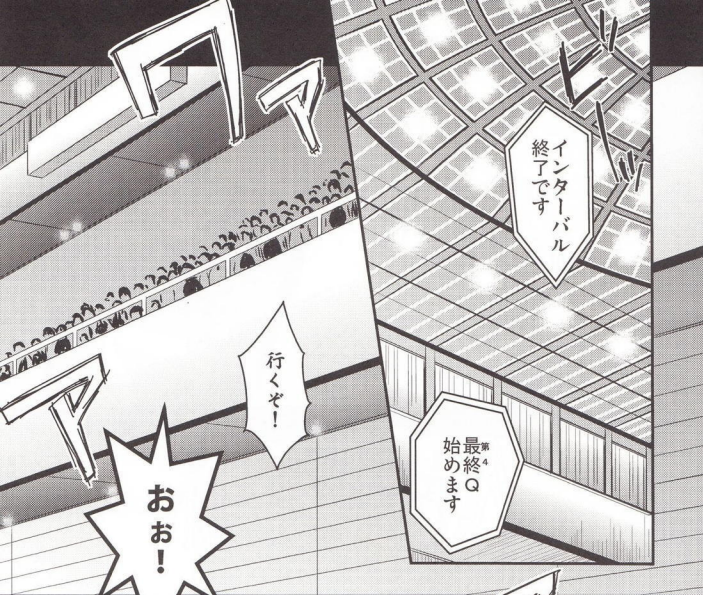


待
っ
て
ろ
よ



桐
皇
!





ちゅーして良い？

海常

うわあ
不健全ですね…

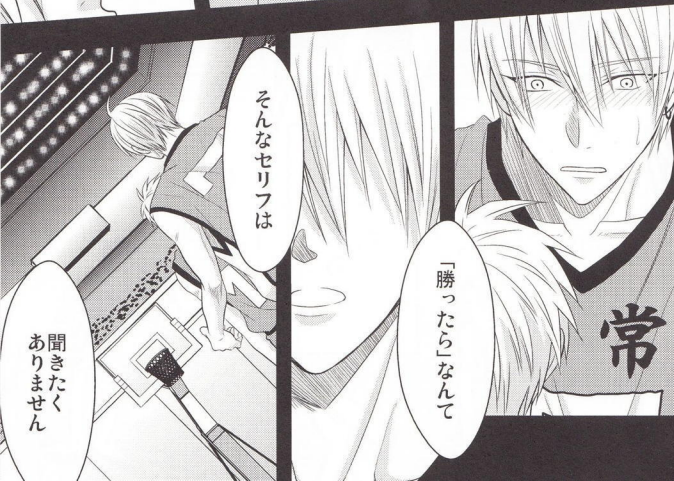
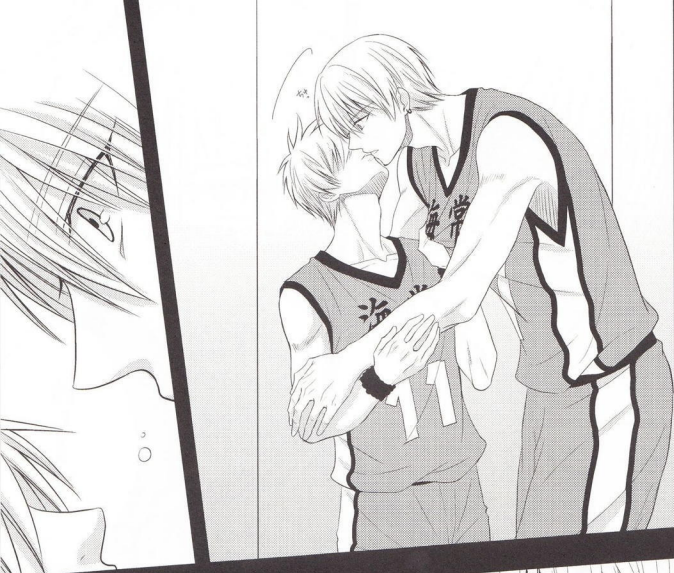
ああああああ
黒子っちいいい！
だこてえ

サイテーです

スマセンツウ
集中するツスう

ちよっと
言ってみた
だけツスよ

…黄瀬君



そんなセリフは

「勝ったら」なんて

聞きたく
ありません



こんにゃろ…っ

オレたちの
ファースト
初めてのキスは



勝ちます。

アアア

ア

これ以上惚れさせて
オレをどうする気スか！

惚れ直し
しましたか



男前すぎ！

フン☆

コートの中
だった

ア

おちつけ
笠松！



おちつけ！

海常高校
予選決勝リーグ全勝！

インターハイ
出場決定——！！

いよいよッスね





インターハイ!



トーナメント表
見たッスか?

はい、
見ました



桐皇とは

準々決勝ッスね



はい





黒子つちを

抱きたい……！

ツ
ス

.....な.....

何か言っ
て欲しいん
すけ

[illegible]





…オレと、

……



つきあって

下さい……



この
流れで!?

どうしま
しょうね





今日、

じゃあ、
行きますか

何処行く
んスか？

キミの家

泊まって
良いんですね？

：きみって
本当にバカ
ですよ

え！？

それって……

早くしないと
帰りますよ

わああああ
待って！

黒子つち！
待ってよー！

待ってー！



実は凄く
緊張している
黒子っちゃん

KAIJO KISE×KUROKO

THE BASKETBALL WHICH KUROKO PLAYS

**VICTORIOUS
KISS 3Q**